

上越まち映画「スイッチバック!!」

総合的な学習

【主題】

ねらい

【地域再発見】自らの住んでいる地域をみつめ、地域に根付く伝統や風景、街並み、文化、歴史、建造物、人との関わり、偉人、人情などを大切にする。地域への愛情を高め、積極的に調べて理解を深めることに主眼を置く。

指導計画

【1-(5)】学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。 など

内容の取扱い

【1-(5)】グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。

【1-(6)】学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。 など

作品紹介

本作は公益社団法人上越青年会議所が創立50周年を記念し製作しました。

上越市と妙高市を舞台に「現在の記憶」を「未来への記録」に残すことにより、次世代の人々に現在の暮らしや地域文化など、今ある価値を発信します。朝市や雁木通りに根付く地域の心の触れ合いを描き歴史と文化、山と海に囲まれた風光明媚な古き良き薫り残る「上越」を映像化しました。出演者には上越市と妙高市から公募し、オーディションを経て、小学生から社会人までの21人のキャストが選ばれました。上越市と妙高市が一丸となって製作し、市民のための市民力による「まち映画」がここに完成しました。監督は市民協働型の「まち映画」を数多くの撮り続ける藤橋誠。本編74分。ロケ地39箇所。ご協力いただいた団体・企業数約50社。エキストラ出演者約150名。すべて上越・妙高市内のみで構成されています。

主な登場人物

小暮未来（15）・・・直江津中等に通う女子中学生。廃部寸前の写真部所属。人生としての助走期間を楽しんでいる。

仲代 玄（18）・・・剣道教室に通うがいつになっても上達しない。2年前両親が他界し姉と住んでいる。

大川佳子（11）・・・市内の小学校に通う童話好きな小学生。人魚がいることを信じている。

あらすじ

小暮未来は、写真部に所属する中学生。ある日、写真部が実績のなさから廃部の危機にあることを知らされ、気持ちを高め、コンテスト出品用の写真撮影に市内を出回るのだが、今ひとつ乗り気になれない。恋愛活動に勤しむ同級生や目標が明確な先輩に対し、羨望と嫉妬心と将来に対する不安を感じている。

仲代玄は、地元の剣道教室に通う高校生。亡き父から譲り受けた竹刀片手に、いつか親のように剣道で一流になりたいと望んではいるものの、もともと運動神経が鈍い玄は、なかなか思うように腕が上達せず、教室の年下から馬鹿にされる日々。ある日、背水の陣と決意し、教室イチの腕前の中学生に挑戦することに。

大川佳子は父子家庭に育つ小学生。記憶の奥底に母が読み聞かせてくれた絵本や童話の楽しさが眠っており、それを呼び覚ますためにも日々図書館に通い、絵本を読みあさっている。市内出身の小川未明の小説「赤い蠟燭と人魚」に衝撃を受け、直江津の海岸線を歩いては、人魚へと母への想いを馳せている。

そんな上越市内に暮らす3人が、それぞれの過去と現実を見つめ、将来に向かって加速してくのだが……。十代の揺れ動く心と、家族愛、変わりつつある街の姿を描いた、十代の「助走」物語です。

主題設定の理由

我々の上越地域は、港と鉄道のまち直江津、悠久の史跡である春日山、歴史文化のまち高田、そして地域のシンボルともいえる妙高山麓を抱える妙高市のように、数多くの豊かな地域資源に育まれて、これまで両市は市町村合併を経て発展を遂げてまいりました。しかし、今の地域を取り巻く環境を考えると、今まで選択した事のない問題（※）が山積みしており、未来をも左右する重要な分岐点であると強い危機感を抱いています。小学生の頃から地域に親しみ、自分の住んでいる地域を深く学習し、愛着を持つことは地域に住まうものとして必要なことです。

本映画においては、10代の主人公が人生の助走期間として市内各所で物語が展開されます。児童が普段慣れ親しんだ場所で物語が展開されることから、興味を持って映像を見ていただくと確信しています。行ったことがある場所はもちろんのこと、身近な場所でも知らない場所への探究心の向上が図れれば幸いです。

（※）今まで選択した事のない問題＝少子高齢化、限界集落、貧困層の増加、障害児の増加、中心市街地の衰退、新幹線開業に伴う新駅周辺の開発、新エネルギーの開発

活用のポイント

■自分の知っているところ、知らないところ

班別の話し合いなどを通じて、ロケ地（39箇所）のどこを知っているか、（家族で行った）思い出とともに班で発表し合う。とともに、知らない場所があれば、それを特定し探求してみる。

■生まれ育った町

学区内（旧市区町村内）には誇れるものがあるか（文化財、史跡旧跡、公園、文化、風習、食物、人）を考える。

■評価の観点

- ・郷土愛を感じる心に対してどのような感情をもっているか。
 - ・話し合いにより、自分自身の見方や考え方を深めることができたか
-

	発問と予想される児童の反応	学習活動
導 入	(1) 自分の住む地域の特徴、残っている文化、有名な人などをあげてみよう ・祭り、文化、風習、街並み、特産物、民芸品 ・建造物、自然、地域の人、偉人など	○地域に出かけるという体験をもとに、地域の良さに目を向けさせる
展 開	(2) 映像を通して(上越、妙高市内口ケ地39箇所) ・自分の知っている場所、行ったことある場所について、思い出を話してみよう ・自分の知らない場所はどこだったんだろう? ・みんなで行ってみよう	○体験をもとに見つけた課題について調べたり見聞きして理解を深める ○知っている場所を掘り下げること はもちろんのこと、行ったことがない場所(知らない場所)についても出掛けてみる
終 末	(3) 校区内にある「大切なもの」を人に伝えよう ・新聞や案内パンフレットの作成など (または、実際に行ってみるなど)	○体験を通して見つけた自分にとっての「大事なもの」「伝えたいこと」を考える

上越まち映画 『スイッチバック!!』

組	番	名前	
---	---	----	--

1. 映画の中で、おうちの人と行ったことがある場所がありましたか。行ったことがある場所と、いい思い出を書いてみましょう。(過去)

2. 校区内で、人に伝えたい すてきな場所 や 物 地域の人、を紹介しましょう。(現在)

3. 地域のとくちょう や 映画の中で出てきた場所について、行って見て、見聞きしたり、あるいは、図書館やパソコンで調べてみましょう。

しらべてみたい事、場所

しらべた結果

4. これから、どのように地域と関わりたいですか。(未来)

上越まち映画 『スイッチバック!!』

組	番	名前	
---	---	----	--

1.

<hr/> <hr/> <hr/>

2.

<hr/> <hr/> <hr/>

3.

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
